

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程 (工業)	みらい情報科	夜・通信	390	320	
	コンピュータ科	夜・通信	210	160	
	CG技術科	夜・通信	1,380	240	
	ゲームクリエイト科	夜・通信	900	240	
	建築科	夜・通信	570	160	
	CADデザイン科	夜・通信	780	160	
専門課程 (商業実務)	医療事務科	夜・通信	1,090	160	
専門課程 (教育・社会福祉)	こども保育科	夜・通信	355	240	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

静岡産業技術専門学校 ホームページ

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学校法人静岡理工科大学のホームページ (https://sist-net.ac.jp/information/) にて「役員名簿」を公開
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	物流等関連企業 代表取締役会長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 財務担当
非常勤	食品等関連企業 代表取締役会長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	物流等関連企業 元相談役	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	大学 名誉教授	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 学事顧問
非常勤	金融機関 顧問	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	冷蔵倉庫業 取締役会長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見
非常勤	システム関連企業 代表取締役社長	令和3年10月1日～ 令和5年9月30日	学校法人運営についての意見 情報 IR 担当
(備考)			

様式第2号の2-②【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第2号の2-①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
(備考)		

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理科大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに従い作成されたカリキュラム上の各科目が達成すべき科目のねらいを実現するために、毎年シラバス作成ガイドラインに従い、授業計画を作成している。</p> <p>授業計画(シラバス)の作成過程及び公表について</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月～ 次年度授業計画策定 11月～ 教員への授業計画(シラバス)作成依頼 <ul style="list-style-type: none"> ・授業計画(シラバス)テンプレート配布 ・授業計画(シラバス)ガイドライン配布・説明 12月～ 授業計画(シラバス)回収・チェック <ul style="list-style-type: none"> 1月～ 授業計画(シラバス)見直し・修正 3月～ 授業計画(シラバス)公表 	
授業計画書の公表方法	静岡産業技術専門学校 ホームページ
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各学科の定めるディプロマポリシー(卒業認定・高度専門士/専門士授与の方針)に掲げる資質・能力の習得状況等は、カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の「成績評価の方法」に掲げる方法に加え、学生生活上の客観的な指標、卒業対象学生に行うアンケート調査の状況、各種資格取得・制作作品の状況、志望進路状況(専門領域への就職率及び進学率等)から学修成果の達成状況の評価する。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績は、科目ごと4段階評語(優・良・可・不可)、素点(0~100点)による評価で表す。不可及び59点以下は不合格となり単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均を成績評価指標とする。成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。

評語	素点	意味	ポイント
優	80~100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70~79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60~69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0~59点	到達目標を充足していない。	0

成績評価指数 = ((4×優の科目数)+(2×良の科目数)+(1×可の科目数))÷科目数

客観的な指標の
算出方法の公表方法

静岡産業技術専門学校 ホームページ

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。

- ・ 専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。
- ・ 情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に着けている。
- ・ 様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。

本校のディプロマポリシーに基づき、各学科のディプロマポリシーを設定する。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

静岡産業技術専門学校 ホームページ

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人静岡理工科大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	静岡理工科大学グループ ホームページ
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	みらい情報科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,870 単位時間/単位	1,590 単位時間 /単位	3,000 単位時間 /単位	120 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			4,710 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100人		116人	0人	4人	13人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>（概要）</p> <p>授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は情報理論および大学における一般教養科目、演習科目は実際の技術的操作、実習科目はインターンシップの実施を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 コンピュータの基礎、プログラムの基礎を学び、基本情報技術者試験の合格を目指す。講義科目が主体。</p> <p>2年次 システム開発をPBL体験型授業で実施。より実践的な演習科目中心となる。</p> <p>3年次 2年次に引き続きシステム開発能力の育成と約1ヶ月間のインターンシップを実施する。</p> <p>4年次 学習のまとめとして海外研修、卒業研究を実施する。</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= $(4 \times \text{優の科目数}) + (2 \times \text{良の科目数}) + (1 \times \text{可の科目数}) \div \text{科目数}$</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会育有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用 																							

<p>することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本科は高度専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
24人 (100%)	0人 (0%)	24人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報処理業界（IT・ソフトウェア開発）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
帝京大学工学部通信課程卒業		17名	
基本情報技術者試験		21名	
応用情報技術者試験		7名	
情報処理安全確保支援士		3名	
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
117人	5人	4.3%
(中途退学の主な理由) 体調不良、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	コンピュータ科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間/単位	870 単位時間 /単位	2,190 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,060 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		174人	3人	6人	21人	27人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>（概要）</p> <p>授業は講義、演習により構成される。講義科目は情報分野における基礎学習、演習科目は実際の技術的操作（プログラミング等）を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>選択A選択者</p> <p>1年次 コンピュータの基礎、プログラムの基礎を学び、基本情報技術者試験の合格を目指す。</p> <p>2年次 システム開発をPBL体験型授業で実施。より実践的な演習科目中心となる。</p> <p>選択B選択者</p> <p>1年次 コンピュータの基礎、ビジネス系ソフトウェアの活用を学び、ITパスポート試験の合格を目指す。また事務系職種を前提としたビジネススキルについて学ぶ。</p> <p>2年次 1年次の学習を基礎に、グループウェアの学習等より高度な操作技能を育成する。簡単なプログラムについても作成演習を行う。</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数 = ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <p>・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用</p>																							

<p>することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
63人 (100%)	0人 (0%)	63人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 情報処理業界（IT・ソフトウェア開発）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
基本情報技術者試験	21名		
応用情報技術者試験	2名		
ITパスポート試験	3名		
C言語プログラミング能力認定試験3級	36名		
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
151人	3人	2.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	C G 技術科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,060 単位時間/単位	90 単位時間 /単位	2,970 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,060 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		118人	0人	2人	11人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）			
<p>（概要）</p> <p>ほぼ全ての授業は演習により構成される。演習科目は実際の技術的操作（画像処理ソフト）を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 2D・3DCG制作の基礎やWeb制作、広告制作に関する基礎を学ぶ。</p> <p>2年次 1年次の学習を基礎にし、学習を深める。選択A（CGアニメーション選択）と選択B（WEB選択）により、さらに特化した演習を行う。</p> <p>3年次 最終学年として、個々の技術をさらに高めとともに、制作演習中心となる。また卒業制作を行い、学習の集大成とする。</p>			
成績評価の基準・方法			
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p>			
評語	素点	意味	ポイント
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数			
卒業・進級の認定基準			
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・</p>			

進級の認定基準としている。
学修支援等
(概要) <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	0人 (0%)	29人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内印刷会社、県外映像制作会社、県外ゲーム制作会社等			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 各学年における各科目において、課題制作や作品制作による授業評価を行っている。 作品制作を通して各種コンテスト応募を行っている。			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
109人	4人	3.7%
(中途退学の主な理由) 精神的理由、進路変更など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	ゲームクリエイト科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,060 単位時間/単位	330 単位時間 /単位	2,730 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,060 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		137人	0人	3人	10人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>（概要）</p> <p>授業は講義、演習により構成される。講義科目は情報分野における基礎学習、演習科目は実際の技術的操作（プログラミング・グラフィックス制作等）を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 ゲーム制作のために必要なコンピュータの基礎、プログラムの基礎を学び、2Dゲームの製作を行う。</p> <p>2年次 学習を更に深め、3Dゲームの製作に必要な各種演習を行う。より実践的な演習科目中心となる。</p> <p>3年次 ゲーム制作を繰り返し行い、ゲームプログラマ・製作者としての学びを深める。学年の最後に卒業制作を行う。</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に着けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 																							

<p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
35人 (100%)	0人 (0%)	35人 (100%)	0人 (0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>県外ゲーム制作企業 県内・県外情報処理業界（IT・ソフトウェア開発）</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。</p>			
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <p>基本情報技術者試験定 13名 C言語プログラミング能力認定試験3級 34名 2級 27名 Javaプログラミング能力認定試験3級 19名</p>			
<p>(備考)（任意記載事項）</p>			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
127人	2人	1.6%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	建築科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,070 単位時間/単位	1,590 単位時間 /単位	450 単位時間 /単位	30 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,070 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		86人	0人	2人	12人	14人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>（概要）</p> <p>本科は2級建築士の受験に必要な学習を行う学科である。一部の科目については国土交通省に対して申告を行い、認定を受けている。</p> <p>授業は講義、演習により構成される。講義科目は建築・設計における基礎学習から始め、演習科目は実際の技術的操作（製図、模型作成等）を学ぶ。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 建築学の基礎を学ぶ。5つの基本科目（計画、設備、法規、構造、施工）を学び設計演習へと結びつける。</p> <p>2年次 1年生での学習を基礎として、さらに内容を深める。また選択A（建築設計）、選択B（建築施工管理）、選択C（インテリアデザイン）を用意し、より実務に即した学習を行う。</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 																							

本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。

学修支援等
(概要)
<ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38人 (100%)	0人 (0%)	36人 (94.7%)	2人 (5.3%)
(主な就職、業界等) 地元建築業界（設計事務所、工務店、建設・建築会社等）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
建築CAD検定 3級	36名		
建築CAD検定 2級	13名		
2級建築施工管理技術検定	16名		
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
82人	2人	2.4%
(中途退学の主な理由) 進路変更、学業不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	CADデザイン科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間/単位	360 単位時間 /単位	1,680 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,040 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		44人	0人	1人	11人	12人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																							
<p>（概要）</p> <p>授業は、演習を中心により構成される。講義科目はコンピュータの基礎や規格・法規等を学ぶ基礎学習、演習科目は実際の技術的操作（製図、CADソフト活用等）を基本としている。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 コンピュータの基礎、機械製図の基礎、3次元CADソフトウェア操作を重点的に学ぶ。また1年次の後半に、作品制作を行い履修状況の確認を行う。</p> <p>2年次 1年次の学習を基礎として、操作技術をより高度化するための演習を行う。特に2次元/3次元設計における技術力向上の演習と確認のための検定受験を行う。学年の後半には、企業様からの設計課題による制作演習を行い、学習の集大成とする。</p>																							
成績評価の基準・方法																							
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数 = ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>				評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																				
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																				
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																				
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																				
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																				
卒業・進級の認定基準																							
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 																							

<p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 地元機械設計企業等（自動車業界、その他機械設計業界）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
3次元CAD試験	1級	16名	
3次元CAD試験	2級	21名	
2次元CAD試験	1級	11名	
2次元CAD試験	2級	27名	
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
44人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業事務		専門課程	医療事務科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,080 単位時間/単位	990 単位時間 /単位	1,000 単位時間 /単位	90 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			2,080 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人	55人	0人	3人	12人	15人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																									
<p>（概要）</p> <p>授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は医療分野における基礎学習、演習科目は実際の技術的操作（医事コンピュータ操作等）を基本としている。実習では各学生が様々な医療機関へ赴き2週間の現場実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 医学、医療、医療事務の基礎習得に必要な学習を行う。特に診療報酬請求事務作業の対応能力育成を中心とした学習となる。他に、救命救急、栄養、保育介護等に関する知識についても医療機関従事者として必要となる基礎力育成の学年である。</p> <p>2年次 診療報酬請求事務能力認定試験合格に向けたさらなる学習と、電子カルテ等医療文書作成に必要なスキルを育成する。現場実習（インターンシップ）も実施する。</p>																									
成績評価の基準・方法																									
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数 = ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>						評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																						
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																						
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																						
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																						
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																						
卒業・進級の認定基準																									
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養部会有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 																									

<p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）											
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他								
25人 (100%)	0人 (0%)	23人 (92%)	2人 (8%)								
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>県内中部地域を中心とする医療機関（クリニック、病院、調剤薬局等）</p>											
<p>(就職指導内容)</p> <p>学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。</p>											
<p>(主な学修成果（資格・検定等）)</p> <table border="0"> <tr> <td>診療報酬請求事務能力認定試験</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>電子カルテ実技検定</td> <td>26名</td> </tr> <tr> <td>医師事務作業補助技能認定試験</td> <td>24名</td> </tr> <tr> <td>調剤事務検定試験</td> <td>29名</td> </tr> </table>				診療報酬請求事務能力認定試験	18名	電子カルテ実技検定	26名	医師事務作業補助技能認定試験	24名	調剤事務検定試験	29名
診療報酬請求事務能力認定試験	18名										
電子カルテ実技検定	26名										
医師事務作業補助技能認定試験	24名										
調剤事務検定試験	29名										
<p>(備考) (任意記載事項)</p>											

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	2人	3.4%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>進路変更など</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
教育・社会福祉		専門課程	こども保育科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,000 単位時間/単位	995 単位時間 /単位	1,705 単位時間 /単位	300 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			3,000 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	70人	0人	4人	19人	23人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <p>幼稚園教諭、保育士となるための授業を行う。授業は講義、演習、実習により構成される。講義科目は幼児教育に必要な基礎理論等を学習、演習科目は実際の技術的操作（ピアノ、造形等）を基本としている。また幼稚園・保育園・こども園に学生が赴き、幼児・園児に対しての実務実習を行う。各学年の履修概要は以下の通り。</p> <p>1年次 保育者として必要な基礎理論を学ぶとともに、ボランティアや園見学、保育園への自主実習などを行う。</p> <p>2年次 さらに保育者としての専門性を高めるため保育心理、社会福祉等について学ぶとともに、幼稚園への教育実習を行う。</p> <p>3年次 知識、技術を広げ、教育・保育実習や施設実習で実践的なクラス運営を学ぶ。</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>各期末に試験を行う。</p> <p>成績表は、科目ごと4段階評語（優・良・可・不可）、素点（0～100点）による評価で表す。不可および59点以下は不合格となり、単位を修得できない。また、成績評価をポイントに変換し、その総和の平均値を成績評価指標とする。</p> <p>成績証明書は、4段階評価の評語で表示される。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評語</th> <th>素点</th> <th>意味</th> <th>ポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>優</td> <td>80～100点</td> <td>到達目標をほぼ達成している。</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70～79点</td> <td>不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60～69点</td> <td>到達目標の最低限は満たしている。</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>0～59点</td> <td>到達目標を充足していない。</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>成績評価指数= ((4×優の科目数) + (2×良の科目数) + (1×可の科目数)) ÷ 科目数</p>	評語	素点	意味	ポイント	優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4	良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2	可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1	不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0
評語	素点	意味	ポイント																	
優	80～100点	到達目標をほぼ達成している。	4																	
良	70～79点	不十分な点は認められるものの、到達目標を達成している。	2																	
可	60～69点	到達目標の最低限は満たしている。	1																	
不可	0～59点	到達目標を充足していない。	0																	
卒業・進級の認定基準																				
<p>（概要）</p> <p>本校を卒業する人材は、学則にある「学校教育法に基づき、工業分野における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業分野における実務教育や教育・社会福祉分野における実践教育を中心とした技術・知識教育による知性高く教養深い有能な職業人や社会人の育成を通して、地域社会の発展に寄与する」ことが教育目標であり、学科毎の専門教育を学習し、以下の能力等を有している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門分野についての基本的な技術・知識を習得し、社会のその分野の中で活用することができる。 ・情報処理、キャリア教育等の基本的なスキルを身に付けている。 																				

<ul style="list-style-type: none"> ・様々な立場の人々と協働して、問題を発見し解決にあたることができる。 <p>本科は専門士の認定を受けている。卒業する学生は教育課程表において必須となる科目の全てにおいて不可を認めていない。進級においても同様である。また学年における総欠課時限数が当該学年における年間消化時限数の15%以内であることも卒業・進級の認定基準としている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラス担任制を導入し、個人ごとの対応に努めている ・補習、再テスト等の実施による習熟度向上対策の実施

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
20人 (100%)	0人 (0%)	20人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 県内中部地域を中心とする教育機関（幼稚園、こども園、保育所、施設）			
(就職指導内容) 学校として専任の就職担当者を配置しかつ、クラス担任、就職活動ゼミ担当者による指導体制を構築している。入学後からの計画的な就職活動準備を行い、教務と連携して学習内容を活用できる就職内定を目指している。			
(主な学修成果（資格・検定等）)			
保育士	20名		
幼稚園教諭	17名		
認定絵本土講座	20名		
MOS (Word2016)	20名		
MOS (Excel2016)	19名		
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
71人	5人	7.0%
(中途退学の主な理由) 欠席過多、学習意欲喪失など		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生、保護者、クラス担任（学校）の情報共有につとめるとともに、専門のカウンセラーによる個別相談を実施するなどしている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
コンピュータ科	250,000 円	920,000 円	円	
みらい情報科	250,000 円	920,000 円	円	
C G 技術科	250,000 円	960,000 円	円	
ゲームクリエイト科	250,000 円	920,000 円	円	
建築科	250,000 円	920,000 円	円	
C A D デザイン科	250,000 円	920,000 円	円	
医療事務科	250,000 円	920,000 円	円	
こども保育科	200,000 円	700,000 円	円	
修学支援 (任意記載事項)				
本校では人物、学力に優れ、他の模範となるであろうと認められる者に対し、学費を優遇する特待生制度がある。本校の行う特待生入試の試験結果に基づき特待生・準特待生 A・準特待生 B・準特待生 C を認定する。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sangi.ac.jp/disclosure/
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 本校における学校関係者評価は、年度の教育活動をまとめた自己点検評価報告書について外部の学校関係者から意見をいただき、学校教育に反映させることにより、教育活動及び学校運営をより良いものに改善することを目的として実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・主な評価項目 (1)教育理念・目標 (2)教育活動 (3)教育成果 (4)学生支援 (5)教育環境 (6)学生の募集と受入れ (7)教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守 (8)社会貢献・地域貢献、国際交流 ・評価委員会の構成 定員：11名 (企業：8名 卒業生：2名 地域・教育関係：1名) ・評価結果の活用方法 評価結果について、校長(責任者)を中心とした運営委員会で改善方策を検討し、可能な範囲で可能な限り早期に改善を実施する。

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
トヨタカローラ静岡株式会社	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
株式会社アイティエス	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	卒業生
鈴与システムテクノロジー株式会社	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
株式会社エイエイピー	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
株式会社松尾鉄工所	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
東静岡クリニック	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
静岡県立科学技術高等学校	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	地域・教育関係
ファイナンシャルジャパン(株)	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
(社)静岡慈恵会 春日保育園	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
(株)ORENDA WORLD	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
(株)杜建築設計事務所	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日	企業委員
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sangi.ac.jp/disclosure/		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.sangi.ac.jp/disclosure/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H122310000223
学校名	静岡産業技術専門学校
設置者名	学校法人 静岡理工科大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		90人	102人	-
内 訳	第Ⅰ区分	42人	45人	-
	第Ⅱ区分	26人	27人	-
	第Ⅲ区分	17人	20人	-
家計急変による支援対象者（年間）		-	-	-
合計（年間）		-	-	-
(備考) 前半期：前期退学者2名含む→後半期：前期退学者2名除く 後半期：後期退学者2名含む 休学者・支援区分対象外（資産超過）は内訳に含む。支援区分対象外（家計基準超過）は内訳には入れないが支援対象者に含む。□				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	-	0人	0人
計	-	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑つて認定の効力を失つた者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	-
3月以上の停学	0人
年間計	-
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	11人	0人	14人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	11人	0人	14人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。